

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

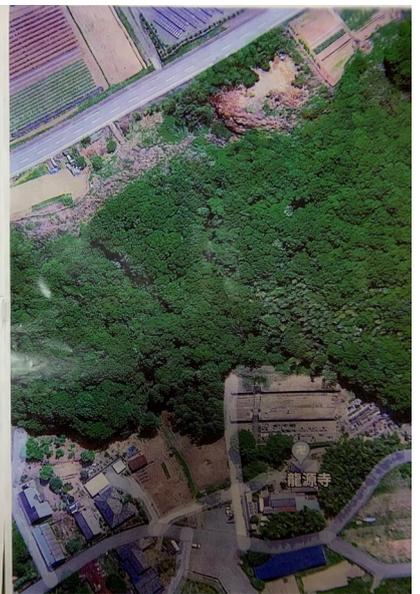
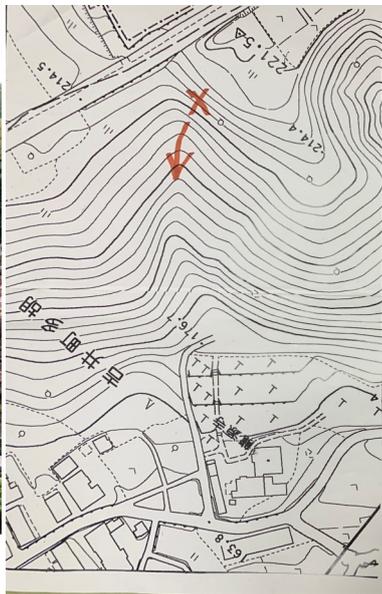
龍源寺境内地及び墓所の人災について



昨年10月12日に龍源寺境内地及び墓所を襲った土砂災害は、当初台風19号による天災と思われましたが、不法投棄行為による人災でありました。もとより400年以上、大きな災害もなく高崎市のハザードマップにも記載のない安全な場所でありました。原因の調査を、群馬県及び高崎市で行い、結果山頂部にあった人為的に投棄された産廃が流れ込んできた事件であることがわかり、現在、行政の管轄は高崎市環境部産業廃棄物対策課が窓口となっています。



大量の産廃が流れ込み大きな被害が出ました



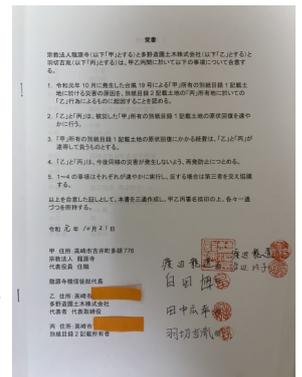
地形図、60mほどの高低差があります



現在の龍源寺墓地の様子
遺骨の流出、破損被害も



謝罪を受け、
交わした覚書



曹洞宗 慈雲山 松田院 龍源寺



蚕影山跡地の様子（令和2年1月現在）
お蚕様養蚕信仰の場所が人為的に伐採された枝や
幹等の産廃で撤去もされず放置されています。



龍源寺境内及び墓所から撤去された人為的に伐採
された木の根や枝などの産廃。約3,700㎡の土地、
傾斜地を長年に亘り計画的に投棄していました。



今なお大量の投棄物と隠すために埋めた土砂が残る原因地である龍源寺裏山山頂部。ゴミ山は、高い所で20mもの高さがあります。道路側からは目隠しをし、傾斜地に止めもせず大量の産業廃棄物を、約20年に亘って長期的に行っていました。土地所有者羽切吉胤氏は多野造園土木株式会社田中広幸社長の義兄。吉井ゴミ処理場近くの土地でもあり、会社・親族ぐるみで計画的に投棄行為を繰り返し行っていました。

原因となる投棄を行ったのは、多野造園土木株式会社（田中広幸社長）であり、当該土地の所有者は田中社長の義兄である羽切吉胤氏。両氏は事件発生2日後に謝罪に訪れ、その後2度に亘って龍源寺及び被災檀信徒20軒に謝罪と原状回復を約束。さらに10月21日には、住職及び白田博総代長と共に、原状回復及び再発防止を行う覚書に署名捺印を交わしました。

しかしながら、12月6日。田中社長はご遺骨を安置している本堂祭壇前での話し合いにて、見積りも未だ出ていない時に、墓所復旧の支払いを拒否。更に当事件は災害であり支払いはしない旨とする調停を住職宛に起こしました。その後、当山では被災檀家、地区住民等と話し合い、田中・羽切両氏を集団提訴するに至りました。当寺だけでなく地域にも迷惑を掛け、多くの方が悲しみ、怒り、困っています。何卒事情をご理解いただき格別なるご協力をお願い申し上げます。